



泉麻人 ● 文 大森裕之 ● 撮影

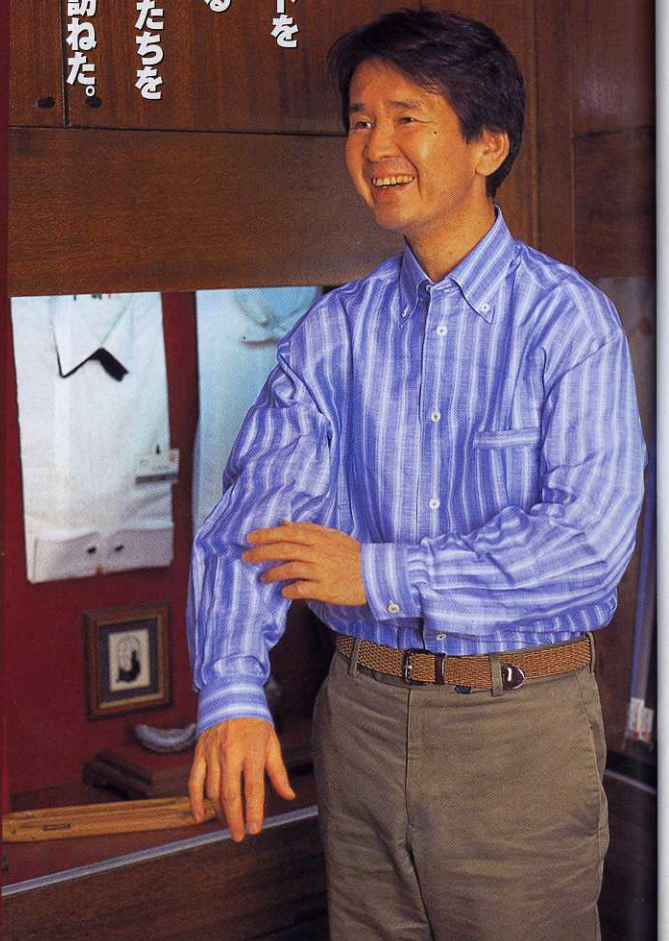


泉麻人の「神戸ファッション」探訪記

レトロモダンな神戸趣味



既製品では満足できない、
こだわりのオシャレ。
自分に合ったオーダーメイドを
提案してくれる、神戸の誇る
一流ファッションマイスターたちを
コラムニストの泉麻人氏が訪ねた。





明治16年頃の柴田音吉洋服店。日本人初の洋服店として開業した



上＝お客様の趣味嗜好が一目で分かる「カルテ」。ひいきにして通いつめる人も多い
左＝店内に並ぶ生地。約500色のパターンから好きな色を選ぶことができる



ビスポーク・テーラー

三宮の隣り、元町のアーケード商店街の一角に『柴田音吉洋服店』がある。ビル2階の店内でお会いした現在の社長は四代目、52歳というが、いかにも「神戸のボン」という洗練された風体は歳よりも若く見える。

こちらの創業は明治16年。初代音吉は、神戸の洋服屋の源とされる英国人カペルのもとで修業した、という人だから、正に老舗中の老舗、といつていい。明治天皇の洋服の仕立てをした…なんていう逸話もある。「お身体からだに触れることはできませんからね、少し離れたところから目測で採寸した、って話ですよ」

先の「神戸シャツ」と同じように、客は店に並んだ生地を見て、好みのスタイルのジャケットやスーツをオーダーする。

「ビスポーク・テーラーって呼ばれるシステムなんですけど、お客さまとコマメに面談を重ねて、趣味なども知り尽くした上で、一つの洋服を作り出していくわけです」

この音吉さんの店にあるいい生地を使って、アルマーニ風のデザインに仕上げたい…などといった、マニアックな注文を出す客も少なく

熟練したチーフ・カッター、
稲澤治徳さんが丁寧に仕立てあげる



「波打つほどにシワが寄るのが良い生地の証拠なんです」と語る四代目柴田音吉さん

2ヶ月ほどかけて仕立てる
オーダースーツは、約22万円～



●柴田音吉洋服店
神戸市中央区元町通4-2-22
☎078・341・1161
🕒10:00～18:00 📅日曜・祝日